

特産農産物



農・福・商 連携

令和2年度 次世代育成アカデミー 3班

【ゼミメンバー】

農業振興課	岩	瀬	大	輔
下水道施設課	三	川	朋	毅
地域安全課	高	橋	和	也
スポーツ推進課	井	川	健	太郎

【指導担当】

障害福祉課担当課長	池	田	幸	枝
-----------	---	---	---	---

【アドバイザー】

地域共生推進課課長代理	菊	地	崇
-------------	---	---	---

1. はじめに（農福連携とは）
2. 本市の概況【農業】
3. 本市の概況【福祉】
4. 全国の事例
5. 農・福・商 連携 《 提案 》
6. おわりに

1. はじめに

農福連携とは

- ・障がい者等の農業分野での活躍を通じ、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す。

Win 農業のメリット

- ・労働力の確保
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持

Win 福祉のメリット

- ・雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ

農福連携等推進ビジョンでは・・・

令和6年度までに、農福連携に取り組む主体を3,000創出

1. はじめに 農福連携のはじまり(国の基本政策)

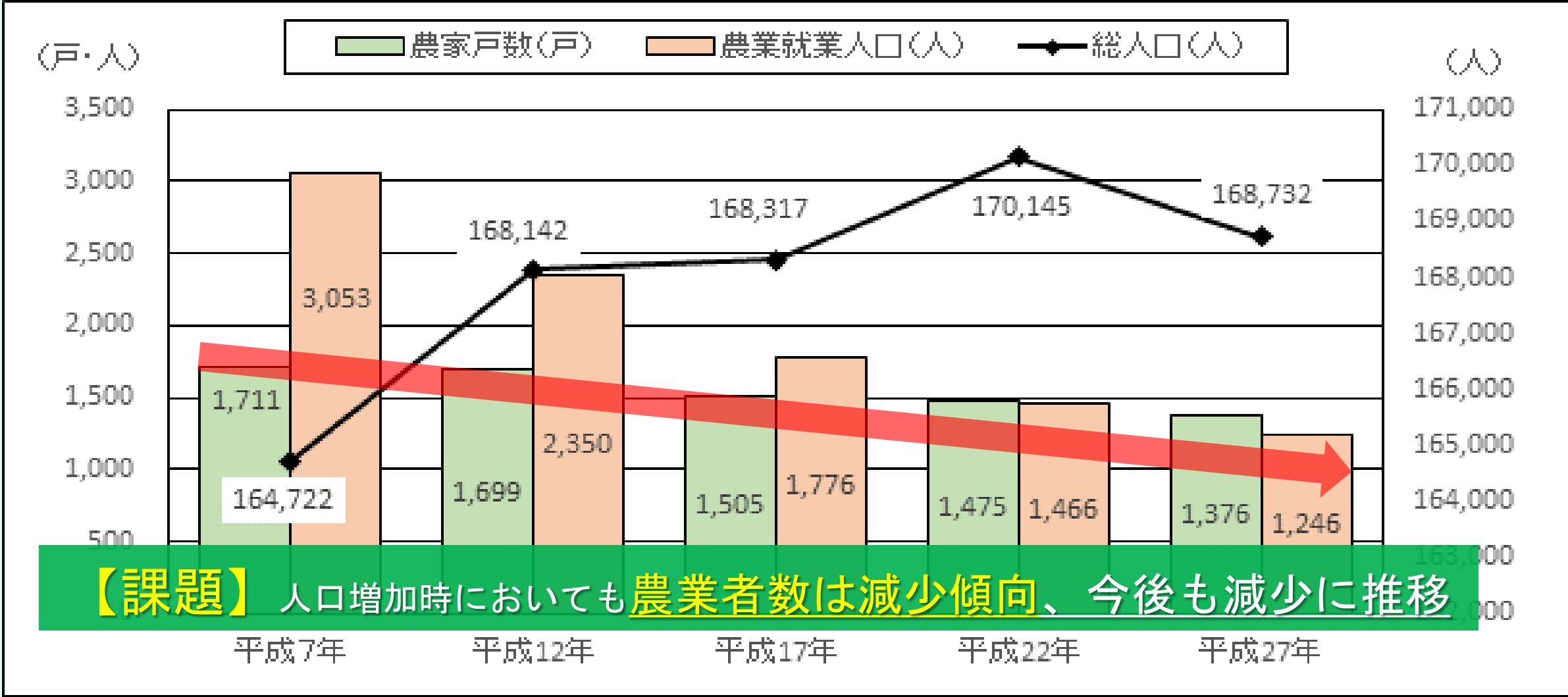
2015年 食料・農業・農村基本計画

- 農業者による心身の健康増進の効果等に着目し、障がい者の自立を支援するための福祉農園の拡大、定着等に向けた取組を推進する。

2016年 ニッポン一億総活躍プラン

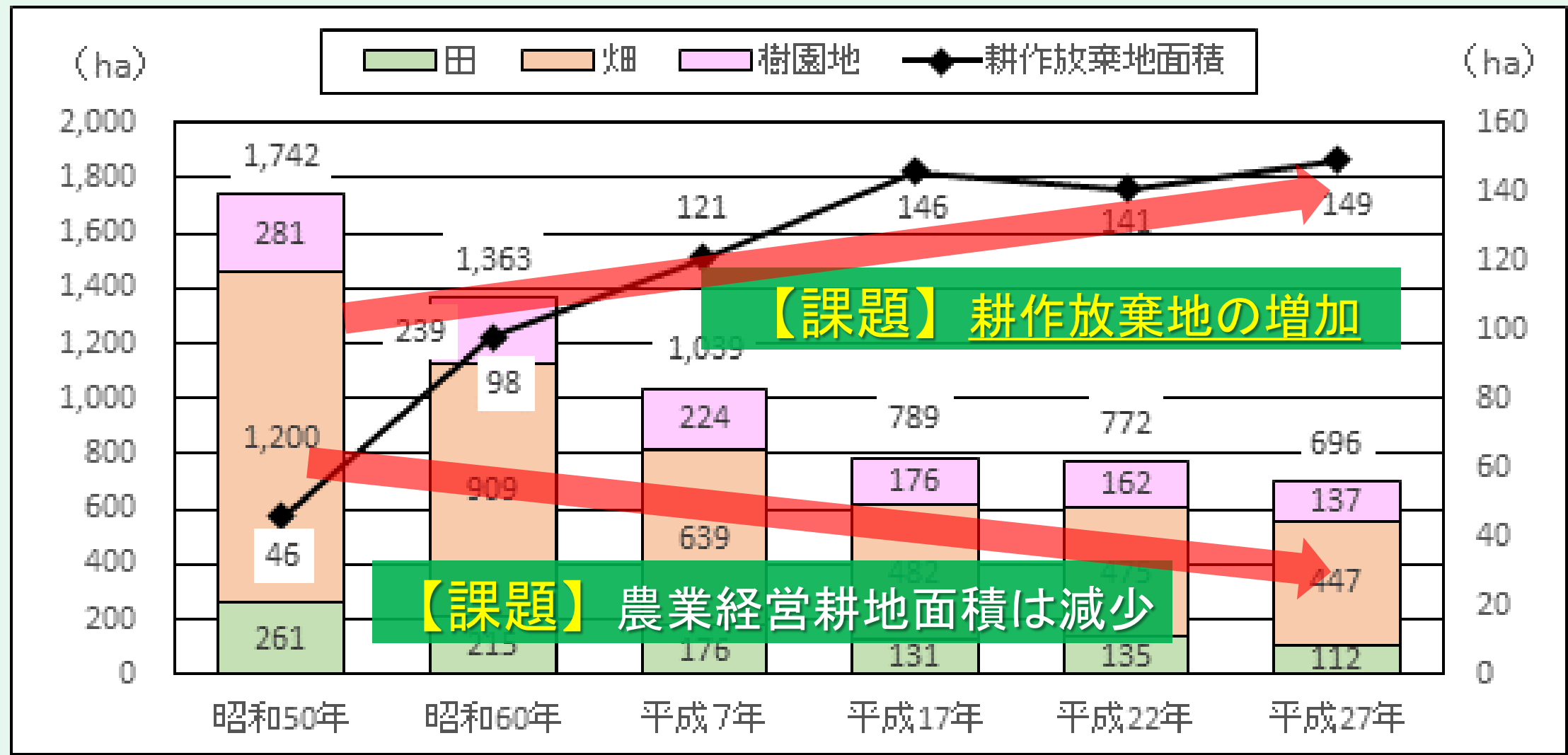
- 障がい者の身体面、精神面にもプラスの効果がある農福連携の推進、ICTの活用、就労のための支援等に取り組むとともに、グループホームや就労支援事業等を推進する。

2. 本市の概況【農業】 農業者数等の状況



本市の人口と農家戸数・農業就業人口の推移 (国勢調査、農林業センサス)

2. 本市の概況【農業】 農地の状況



本市の農業経営耕地面積と耕作放棄地の推移 (農林業センサス)

2. 本市の概況【農業】 農家アンケート

農業経営の将来意向

(H29.8JAはだのアンケート調査 農業者602名 回答378名)

項目	自給的農家	販売農家（売上別）		
		500万円未満 (616戸、85.1%)	500～1000万円未満 (52戸、7.2%)	1000万円以上 (55戸、7.6%)
次世代まで農業を継続し、一層、経営を強化・改善していきたい	2.6%	9.8%	23.1%	47.1%
自分の代までは農業を続けたい	12.8%	37.9%	28.2%	29.4%
4・5年は続けたいと思っているが、どうなるかわからない	30.8%	32.7%	17.9%	14.7%
自分の代で農業を縮小していきたい	0.0%	7.2%	20.5%	5.9%
近い将来、自分の代で農業はやめたい	23.1%	7.8%	10.3%	0.0%
その他				
無回答				

【課題】 新たな「農の担い手」が求められている

売上1,000万以上の農家は次世代まで継続する意向がある一方、それ以外の農家は、**売上が少ない程、将来的な農業経営の意向は少ない**

農地を持続可能なものとするための方法

(R2.7秦野市アンケート調査 農協組合員2,232名 回答965名)

項目	回答率
市外や地域外から、農業者や農業法人を受入れ、人材を確保する	30.6%
地域内の担い手の後継者を育成する	27.4%
地域で耕作している担い手へ農地を集積し営農しやすい区画にする	26.7%
農業以外から参入した新規就農者を受け入れる	26.5%
その他	11.6%
	9.3%

農地の持続のため、「市域外からの参入」・「後継者育成」・「担い手への集積」・「農業外からの参入」等、**農地の保全のため様々な方法が求められている**

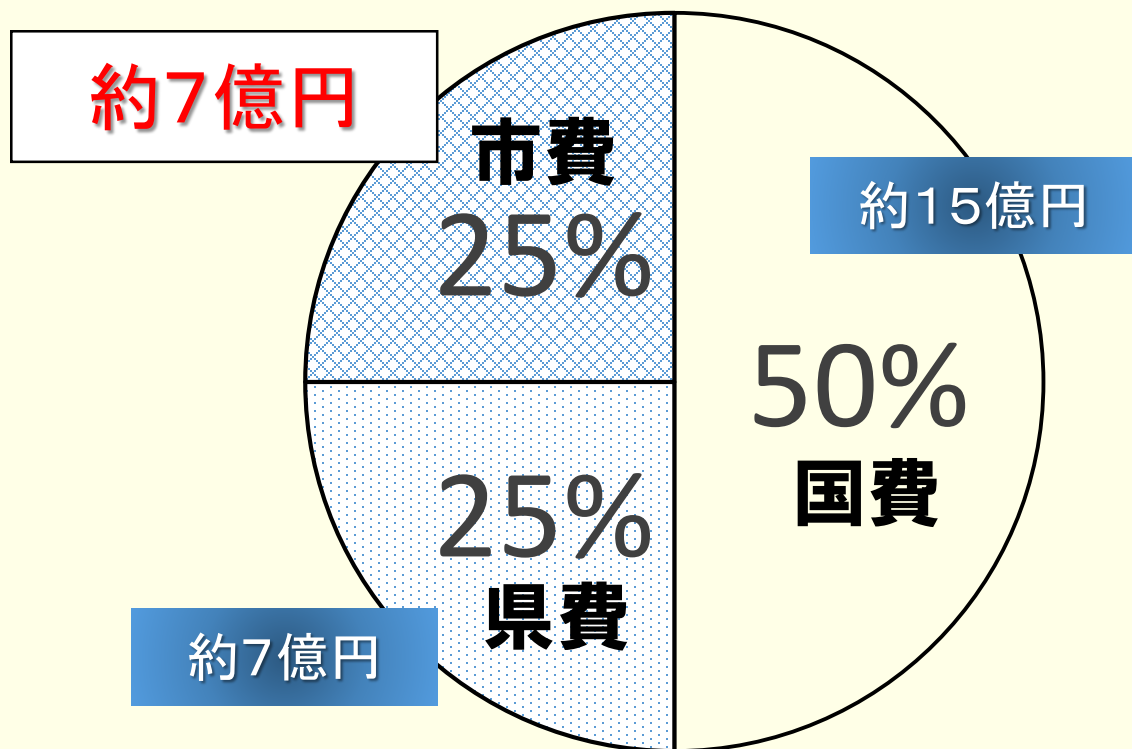
障がい者数	全国	秦野市
身体障がい者	428万7千人	4,895人
知的障がい者	96万3千人	1,455人
精神障がい者	84万1千人	1,475人
計	609万1千人	7,825人
参考:総人口	12,744万人(h31.1/1時点)	164,998人(h31.4/1時点)



国民のおよそ4.8%（秦野市の場合4.7%）が
何らかの障がい者手帳等を持っている

3. 本市の概況【福祉】

行政側の課題



令和元年度介護給付・訓練等給付費事業費決算 単位：円

予算現額	決算額	左の財源内訳		
		特定財源		一般財源
約29億	約29億	国庫 県費	約15億 約7億	約7億

支給内容	実利用者数	利用時間・日数
居宅介護	115人	2,200.75時間
重度訪問介護	5人	322時間
同行援護	22人	324.5時間
行動援護	23人	616時間
短期入所	61人	375日
生活介護	406人	8,023日
自立訓練(機能訓練)	1人	11日
自立訓練(生活訓練)	3人	26日
就労移行支援	43人	720日
就労継続支援(A型・B型)	486人	7,886日
就労定着支援	16人	16日
療養介護	12人	371日
共同生活援助	195人	5,500日
自立生活援助	2人	2日
施設入所支援	183人	5,511日
計画相談支援	161人	-
障がい者グループホーム県単上乗せ	167人	-
計	1,901人	-

賃金

就労継続支援(B型)事業の周辺課題			
平均作業工賃(障がい者)		参考:全国平均最低賃金	
時間額(全国)	214円	時間額	874円
時間額(市内)※	249円		

※秦野市内に所在地のあるB型事業所より算定

【参考】就労継続支援(A型):雇用契約のある就労支援

時間当たり
約600円程低い

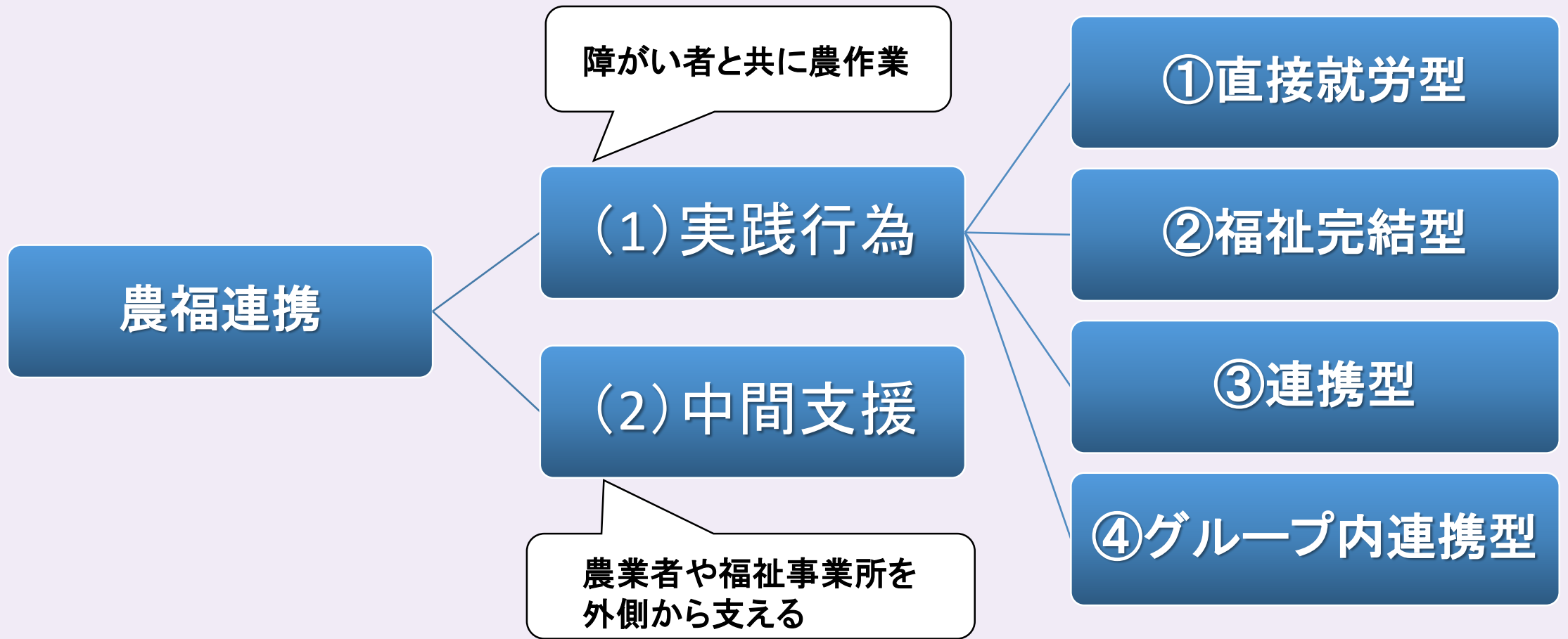
【課題】 工賃が低い

勤続期間

全国平均勤続期間(障がい者)			参考:全国平均勤続期間
身体	知的	精神	
10年2か月	7年5か月	3年2か月	12年4か月

厚生労働省及び神奈川県ウェブより(平成30年度の数値)

4. 全国の事例（農林水産省による分類①）



4. 全国の事例（農林水産省による分類②）

①直接就労型

農業者が障がい者を直接雇用

②福祉完結型

福祉事業所が単独で農業を実施

③連携型

農業者と福祉事業所が契約し圃場へ

④グループ内連携型

社会福祉法人、農業法人等を設立

4. 全国の事例 福祉完結型①

(山形県鶴岡市 社会福祉法人 月山福祉会)

取組の内容

- ◆肉牛49頭を国産の粗飼料(牧草)のみで飼育し、自家繁殖も行っている。
- ◆約4haの畑及び100坪のハウス2棟で県特産「ただちや豆」、落花生、玉ねぎ等の野菜の生産し、販売を行っている。
- ◆さらに、柿、ブルーベリー、イチジクを栽培し、ジャムに加工して販売。

取組の効果

- ◆「完全国産牧草牛」としてブランド化、「有機JAS認証牛」の承認取得を目指す。
- ◆障がい者が特産品の生産に関わることで、特産品の生産量の維持。



4. 全国の事例 福祉完結型②

(富山県富山市 社会福祉法人 フォーレスト八尾会)

取組の内容

- ◆約40a 耕作放棄地を障がい者とともに再生し、桑を栽培。
- ◆障がい者は桑の葉と実(マルベリー)の収穫と洗浄、乾燥及び加工作業を通年で実施。
- ◆さらに、町内農家から約40aの農地を借り受け、水稻や野菜の栽培も開始。国の交付金を活用し、作業所を整備。

取組の効果

- ◆桑の栽培農家がいなくなったことへの引き受け手となり、農作物を守ることに貢献。
- ◆桑の葉を利用したお茶、せんべい、ソフトクリーム、ペットボトル飲料等、多様な加工品の製造・販売に成功。



5. 農・福・商 連携 《 提案 》 前提

【農】 農地

貸付希望登録農地 約180筆(農地中間管理貸付希望申出より)

⇒ 条件の良くない農地が多いが、比較的、好条件の農地の貸付申し出もある

【福】 福祉 (R2.11.20農福連携研修講座 講師(進和学園)より)

《意義》

自然の中に身を置くことで身体的・精神的にプラスの効果が期待される 等

《取組事例》

大規模な農業者へのハウス内作業への派遣、工場内での加工作業等の実施

【商】 商業 (市内豆菓子店、JAはだの ヒアリング)

秦野産落花生の仕入量は足りていない

⇒ 落花生栽培は販路が確実にある

5. 農・福・商 連携 《 提案 》 福祉完結型

【農】 遊休農地で
 【福】 福祉施設が特産農産物  を作り
 【商】 市内豆菓子店や農協に出荷

「福祉施設」

- 落花生の生産
⇒ 市の特産物
⇒ 栽培が難しい
(土質が適している)
⇒ 販路が確実にある
- 鳥獣等被害を考慮した好条件の農地借入
- 施設職員同行のもと、障がい者自らが落花生を生産
- 「市内豆菓子店」や「JAはだの」に出荷

「市」が農地を斡旋

賃貸借等 ※農地法による貸借

「農地貸付希望者」

「市」が技術支援者を斡旋

栽培技術支援

「落花生生産
農業者」

技術支援に対する報酬支払

【福】落花生出荷・収益
【商】市内産落花生の仕入

「市内豆菓子店」
「JAはだの」

5. 農・福・商 連携 《 提案 》 落花生の栽培工程

栽培工程ごとの作業適否

作業工程	耕うん・ 施肥(堆肥)	施肥 (化学 肥料)	薬剤 散布	マルチ張り	播種	除草 (追肥)	収穫	乾燥	出荷
時期	4月	4月～5月				5月～9月	9月～10月		
福祉施設 作業	× ※1 農家に 委託	○	○	△ ※1 農家に 委託	○	○	○	○	○

※1 既存仕組みの活用 トラクター耕耘委託: 10a当たり10,000円

(品種:改良半立)

※2 農業機械でのマルチ張りを委託することにより、適切にマルチを設置できる
⇒ 適切な栽培環境を作れる

5. 農・福・商 連携 《 提案 》 農家等ヒアリング結果

① 農家ヒアリング「上大槻の認定農業者」

- 現在、落花生は60a程の農地で栽培している。
- 秦野の土は落花生に向いており、栽培は難しい。 播種後は除草作業が主な作業となる。収穫作業に時間がかかる。
- 技術的なこととして、マルチは機械で張ったほうが良い。手作業の場合は土との間に隙間が出来るため雑草が生える。
- 専業農家としては、作業時間に対しての収益率は多くない。
- 反収(10a当たり収穫量)は多い時は300kg、少なくとも200kg。
- 販路は、市内豆店、農協、その他。

農

② 福祉施設ヒアリング「松下園」

- 松下園の野菜作り
 - ・ トマト、ネギ、白菜、大根等
 - ・ 出荷先 夢散歩、松下園前直売所等
- 市へ期待する役割
 - ・ マッチング
 - ・ 障がいがあっても、できる作業は多いことを農家に周知してほしい

福

5. 農・福・商 連携 《 提案 》 農家等ヒアリング結果

③ 豆菓子店ヒアリング「(有)かまか商店」

- 現状、市内落花生の仕入量が足りていないため、市外からも仕入れている。
- 豆菓子加工には、「改良半立」を仕入れている。仕入れ値はその時々相場に応じて。
- 相州落花生は歴史があるため残していきたい。
- 以前、農家等と連携して、落花生の増産に取り組んだことがある。
- 仕入れた落花生の殻向きを福祉施設に依頼している。

商

④ 「JAはだの」ヒアリング

- 落花生の仕入量は、もっと増やしたい。
- 集荷価格 品種:改良半立(加工品に適した品種) ⇒ 【3等級】約625円/kg、【4等級】約515円/kg
 品種:郷の香(うでピーに適した品種) ⇒ 約700円/kg

商

5. 農・福・商 連携 《 提案 》 栽培収支(標準型)

品種:改良半立(栽培面積:10アール) ※10アール=1,000m²

	販売量	売上高 (税抜)	1kg単価	経費合計	所得額	労働時間	所得額 /時間
神奈川県 標準指標	270kg	172,611円	639円	159,770円 ※農業機械経 費含む	12,841円	56h ※脱りゅう機使用	229円

出典:神奈川県農業技術センター「作物別・作型別経済性標準指標経営収支」

5. 農・福・商 連携 《 提案 》 栽培収支(試算)

品種:改良半立(栽培面積:10アール)

	販売量	売上高 (税抜)	1kg単価	経費合計	市補助金	所得額	労働 時間	所得額 ／時間
県標準指標	270kg	172,611円	639円	159,770円	—	12,841円	56h	229円
提案モデル (試算)	270kg	178,200円	(農協集荷額 3等、4等及 びの農家等 間取り相場の 平均で設定)	農機具費 △69,464円	40,000円 (既存制度 「落花生生産 支援事業」)	107,744円	166h (手作業で 収穫調整)	県標準指標
				市場手数料 △19,850円				249円 B型市平均
				農地貸借 10,000円				485円
				耕うん委託 10,000円				
				マルチ張委託 10,000円				
				栽培技術支援 10,000円				
				上記加減後 110,456円				

5. 農・福・商 連携 《 提案 》

ロードマップ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
【農】	<ul style="list-style-type: none"> ・農地選定 ・技術指導者等調整 	農地選定	農地選定
【福】	取組意向調査	<p>モデル事業</p> 一部施設で試行(落花生栽培) → 効果検証(収穫量、作業内容など)	取組事業所拡大(落花生栽培) → 効果検証(収穫量、作業内容など)
【商】	仕入意向調査	仕入	仕入

6. おわりに 【特産農産物 × 農・福・商 連携】

【福】福祉施設

- 良質な落花生を生産する必要がある
- 生産経費を負担
- **平均工賃より高い収入**

Win

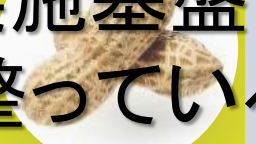
【農】農地所有者

- **遊休農地貸出**

【農】農家

- 生産技術支援
- 一部作業を受託

実施基盤は
整っている



【市】秦野市

- 遊休農地を斡旋
- 農業技術支援者斡旋
- 生産支援補助金
など全体のコーディネート
- **特産農産物の振興**

Win

【商】市内豆菓子店、JAはだの

- **市内産落花生の仕入**

Win

Win

ご清聴ありがとうございました

